

平成28年度第2回海外姉妹都市検討市民会議作業部会（平成28年8月30日開催）

稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果及びフォスターシティ市との交流事業等について意見交換を行い、「次回の会議で、フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、フォスターシティ市と並行して議論していく他の候補地について絞り込みを行う」こととなった。

1. 稲城市民の持つ海外ネットワークの調査結果について

「稲城市民の持つ海外ネットワーク調査」（対象：稲城国際交流の会の会員、いなぎにカレッジの市民ボランティア理事及び市民ボランティア講師）の結果について、意見交換を行った。
（主な意見）

■Q1 海外での長期滞在経験について

・勉学は欧米で、実際の仕事は途上国及びヨーロッパや中国等に集中している。

■Q2 家族の海外滞在経験について

- ・子どもが親に付いて行って海外の学校で勉強するケースは、安全性が確保されていたり、日本人学校がある場所には連れて行く傾向が強く、辺鄙な途上国には連れて行くことは難しい。
- ・業務については、行き先が欧米、アジアへとかなり大きな広がりを持っている。
- ・現地で活躍している方は、アメリカ、カナダ、フランスなど、欧米が中心になっている。

■Q3 稲城市と姉妹都市関係を結ぶと良いと考えられる都市の提案について

- ・提案された都市については、姉妹都市を結ぶ可能性やキーパーソンが明確になっていないが、日本にある大使館や領事館を通じて向こうの意向を確認することによって、可能性をはっきりさせることができる。

■Q4 交流事業の提案について

- ・資料『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』の交流事業の中に、この部分はかなり含まれていると思う。
- ・何故その交流事業が提案されたかは、個々の人達の経験や想いが背景にある。
- ・交流の仕方についても、あまり目新しいものはないような気がする。

■調査結果全体について

- ・国際交流・姉妹都市への関心が高い方もかなりいて、そういう人たちの意見がなるべくこの議論に反映されないと、市民の議論にはなっていないということが確認できたと思う。
- ・この調査だけに留まらず、もう少し、色々な市民が持っているポテンシャルを調べていくような実態調査をやらないと、市民会議が表面的な議論に終わってしまう危惧がある。
- ・もう少し、絞り込んだ議論をしたいと思う。

2. フォスターシティ市以外の都市の検討について

調査結果等で挙がってきた具体的な都市について、フォスターシティ市の他に候補地となるものがあるかどうかを議論した。

(主な意見)

- ・語学勉強の機会も、アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダに限らず、タイやフィリピンなどを選んでも良いと思う。
- ・経済関係、治安の問題、モラルの問題、親日的であるか、飛行場が近くにあるか、そういう条件で、例えばアメリカを選ぶのも、フォスターシティ市も非常に有望だと思うが、その他に東南アジアも候補の一つ入れて、二つ両輪で検討したらどうかと思う。
- ・アンケート結果で出てきた国を具体的に1つずつ潰して行くという議論ではどうか。
- ・具体的な都市名が挙げられたものが、どれくらい姉妹都市となる可能性があるかということについては、日本にある大使館等に問合せをして確認する方法が考えられる。
- ・フォスターシティ市だけがある程度具体化していて、他の都市は具体的に見えないというのでは議論がかみ合わないので、提案者がある程度絞り込んで、具体的に提案してほしい。
- ・相手先をどうやって見つけていくか、そこに市民がどう参加していくかというのが大きなポイントであると思う。
- ・フォスターシティ市が良いと言っているのは事実。
- ・今日挙がってきた都市と、前回のリストアップされている都市とを、それぞれに調べたりして、自分はフォスターシティ市以外に良いところがあれば、2つぐらい出したいと思う。
- ・青少年育成の立場から、保護者が子どもを安全に行かせられるという視点では短い時間で行けるという点が重要と考えるので、そういう視点で候補地をリストアップしたい。

- ・候補地を選ぶにあたっては、選定条件は全て『平成27年度稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議「主な意見の分類」』の資料に網羅されているので、この資料が叩き台になった議論が良いと思う。あとは、過去の交流実績やきっかけがあるかどうかという部分の議論で絞り込んで行くしかないと思う。
- ・こういう国々があるという議論も、27年度の議論の結果を踏まえて、もう少し絞り込んでいく方が良いと思う。
- ・前回の作業部会の中で、前回の都市のリストについては、ほとんど可能性はなかった。
- ・ユージン市との関係については、東日本大震災を契機に、今まで交流していたにも関わらず、こちらからいくら連絡をしても音信不通になってしまって、少しそぐわないということだった。
- ・候補地を新たにインターネットから引っ張り出すというのは、少し無謀だと思う。
- ・インターネットから出しても、条件に合えばいいのではないか。
- ・今回挙がっている都市について、向こうの意思を確認する作業をするため、市から証明書を発行してほしい。
- ・個人で姉妹都市を結ぶわけではないので、個人の関わりだけではなく、行政との関わりがその都市にあるかということも、そのネットワークから探していかなければいけない。

3. 追加調査の提案

委員から追加の調査について提案があり、そのことについて意見交換をした。

(提案内容)

- 提供資料(1) 稲城市の国際化ネットワーク資源
(2) 稲城市の主要な資産
- 調査提案(1) 外なる国際化ネットワーク調査
(2) 内なる国際化ネットワーク調査
(3) 団体の海外交流実績に関する調査

[提案理由]

- ・こういう情報を総合して集めると、稲城の国際化の実態がどうなっているのかが分かる。その内容を踏まえた上で議論をしていかないと、個人の限られた経験の中で発言を繰り返しても、実際に議論が深まって来るとは思えない。
- ・稲城市の資源を、将来国際化によって色々な形で活用して行けるような、そういう全体像を描かないと、交流の全体イメージは浮かばないと思う。

上記提案に対して、事務局としての考えを聞かれた。

(事務局の回答)

- ・今出ている候補地をいかに絞り込んでいけるのか、対象となり得るのかということを決めて行かなければいけないと思う。
- ・内なる国際化が社会的にクローズアップされていて、稲城市でも1,000人を超える外国人がいるが、稲城市の場合は、課題になっていることとは少し違うと思っており、今回の海外姉妹都市の議論とは少し質が違うと思う。

- ・(外なる国際化ネットワーク調査について)市民会議の参加団体については、去年の段階で、色々なご意見をいただいて、もう出尽くしている。
- ・各団体は、それぞれの存在意義があって、その目標に向かって活動しているので、特定の分野での国際交流はたくさんあると思うが、それが市民全体の国際交流にどこまで結びついてくるのかが想定できない。

4. フォスターシティ市との交流事業について

フォスターシティ市から、「稲城市が引き続き姉妹都市提携を希望するならば、喜んで前に進めたい。」との回答を得、希望する交流事業として「青少年のスポーツ交流(野球・サッカー)」、「学校交流」があることに伴い、具体的な想定される交流事業について委員から質問があり、事務局が回答した。

(交流事業案)

- ・東京ヴェルディや日テレベレーザの選手に指導してもらう交流。
- ・学校交流としては、インターネットでの交流、グリーティングカードでの交流、手紙での交流、シャドースチューデント等。
(※シャドースチューデントとは、子どもが現地に行った場合に、現地の学校に登校して、授業を受けるというもの)

[フォスターシティ市を足がかりにした、広い範囲な交流]

- ・北カリフォルニアの商工会議所もあるため、日本の商工会が交流するということもあると思う。
- ・北カリフォルニアはぶどうの産地で、ワインも世界的な産地になっているので、そういった交流も可能かと思う。

5. 今後のビジョンについて

行政としての今後のビジョンについて質問をいただき、以下のように回答した。

(行政の回答)

- ・海外との交流を進めるにあたっては、しっかりした組織を作っていきたいと考えている。
- ・組織は、役所の中に作るのではなく、交流協会のような外部的な組織を立ち上げるのが一番良いと思う。
- ・姉妹都市以外であっても、色々な都市との交流が進んで来れば、交流協会を対象としていくことも出てくると思う。

→ 今回姉妹都市を決めても、他の都市との交流の可能性も全部なくなるというわけではない。海外交流はまずできるところからスタートをして、しっかりとそこと交流をしながら、他の都市とも交流していくことができる。

6. 今後の検討について

今回の作業部会の結論として、次回の会議では、フォスターシティ市を候補地として検討を進めるとともに、フォスターシティ市と並行して議論していく他の候補地について絞り込みを行うこととなった。